

## 1. 評価結果概要表

平成 20年 4月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2070600115
法人名	医療法人こまくさ会
事業所名	医療法人こまくさ会 こまくさの森
所在地	長野県諏訪市中洲豆田5924番地 (電話) 0266(58)7800

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年4月2日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】( 20年 2月 1日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤6人	非常勤1人 常勤換算6.05人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要 ( 2月 1日 現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5		要支援2				
年齢	平均	85 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	諏訪赤十字病院、諏訪歯科医師会、池田医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諏訪大社や諏訪湖などの観光の入り口である諏訪インター近くにホームはある。近くには郊外型のショッピングパークがあり、主要道路は交通量が多いが、ホームはそこから1本奥の生活道路に面して、周囲には畑や民家、地域の小中学校がある。1階はデイサービス、2階にホームがあり周囲の眺めが良い。この地域性を活用し、開所当初から学校との交流が盛んである。特に小学校は単に行事への招待や訪問に留まらず、3～4年と積み重ねる中で、お年寄りから昔の話を聞いたり、児童が考えた遊びを一緒に楽しむ等の交流が盛んで、双方の楽しみや力となっている。その中で、平成12年の開所当初から入居されている入居者の高齢化に伴う、新たな介護ニーズもしっかり把握し見極めを行っている。入居者本意の無理のない生活支援を進めながら、ラジオ体操を取り入れ、楽しく・きちんと食べる支援等にも力を入れ、成果も得られている。また医療法人の総合力を発揮し、往診・訪問看護等を支援しながらの看取りの実績がある。この事は職員の確かな介護力や入居者・ご家族の安心した支援に繋がっている。またホームの理念でもある、普通の生活を共に送る実践がなされていて、職員も入居者同士も互いに支えあう和が定着している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は特記されていない。ただ、事業所の理念のよりわかり易い掲示や、使いやすく・適切な、アセスメントシートや介護記録等の様式の見直しについて、チーム全員で話し合い、検討が進められており、自己評価・外部評価での気づきを活用し、前向きに継続的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議で取り組みの状況報告をしながら、経験豊かな管理者や事務長を中心に職員全員でサービス評価の意義や目的を理解・確認して、評価への取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	出席者に、この会議の目的や目指す方向性・意義を説明、運営要綱を提示し理解を頂きながら会議のスムーズな運営に向けて取り組んでいる。毎回議題を提示し、議題に沿う形で意見交換を行っている。内容はホームの活動や状況報告を中心に、出席者に分かりやすく伝える工夫もしながら、ホームへの理解を深めて頂くことや、ホームが抱えている課題や介護保険制度が抱えている課題について、幅広い内容の意見交換を行っている。更にこの会議を通じての人脈を大切にしながら、地域に密着したホームのあり方や地域住民との連携の充実に向けて、前向きに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書には公的機関の苦情・相談窓口を含め、事業所の電話番号・担当者を明記し説明や掲示を行っている。また運営推進会議への出席や、事業所には意見箱が設置されていて、家族が気軽に意見や苦情を表出できる機会を設けている。苦情への対応は基より、苦情がない場合も常にサービスの確認を行いながら、サービスの見直しや向上に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設周辺の散歩や買い物等を通して、自然な形で地域の方々と挨拶を交わすことを大切にしている。また小中学校・地域ボランティアの交流・訪問も積極的に行っている。自治会には加入していないが、地域の正月行事へ出かける機会を持つ等、無理なく出来ることを行いながら、更に地域との交流・連携の充実に向けて取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成12年開設当初の法人の方針から、さらに具体的に下ろし、入居者本意の普通の生活をし続けることを支援する、事業所独自の理念がつくりあげられている。またホーム内にも掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、ホームの方針・理念を大切に捉えて、理念に沿った介護が出来ているか、話し合いを持ちながら日々の生活支援に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学校との交流が継続的に行われている。特に小学校との交流は活発で多い月は3回も会が持たれている。又正月には地域のどんど焼きに参加したり、ボランティアの方々との交流も活発。学生の介護実習の受け入れも行っている。	○	地域の自治会・老人クラブ等の集まり(敬老会など)にも参加・交流できれば、と前向きに検討中であり、今後に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、運営推進会議で報告をしたり、気づいたことや結果を基に話し合いを持ちながら、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員・介護相談員・市担当者・市社協など、職員も多数出席し会を重ねている。当会議の意義の理解を深めて頂きながら、パワーポイントスライドによるホームの活動・状況報告や議題に沿って話し合いが行われ、ホーム全体の向上に取り組んでいる。	○	会議の情報や出席者を通じての地域との連携を活用しながら、さらに地域に密着したホームの運営が出来るように積み重ねていきたい。また出来れば入居者の出席も望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社会福祉協議会の生き生き元気館をご提供いただき、長野県在宅老所グループホーム連絡会の研究会を年3回以上開催。また市より派遣の介護相談員の方々の訪問を通して助言を頂きながら取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会の際に近況等をお伝え(個別に電話での対応も)しながら、金銭管理帳の確認及びサインを頂いている。又ホームでの生活(個人史)をフィルムに収め、独自のアルバム作りを行い面会時に見て頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱が設置されている。ホームの相談窓口以外にも公的機関の相談窓口についても明記され、説明も行われている。また運営推進会議に毎回家族の出席もあり、気軽に話し合える関係作りに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は入居者への影響を最小限に抑える努力をしている。やむをえない異動・離職の場合、特に夜勤については馴染の関係作りを最優先した職員配置をし、職員も早期にケースの把握ができるよう話し合いを密にしながら進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員は全員介護福祉士の有資格者である。毎年全職員が研修に参加し、法人内の研修や県の研修等の外部研修に積極的に参加し報告が行われている。また自発的な自己研鑽の研修についても勤務体制を調整し推奨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年4月、当事業所の事務長が世話人となり、諏訪圏域のグループホームの交流会が当事業所で開催・発足した。今後は3ヶ月を目安に開催予定。皆が元気になる様な交流会を目指し、充実させて行きたいと意欲的に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前に過ごされていた施設を訪問し、職員や本人と会う中で関係作りをしている。また居宅を訪問したり、ご家族と共にホームの見学をして頂いたり、相談をしながらサービス利用へ繋げている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの理念でもある“普通の生活を職員も共に送る”を実践している。特に家事(料理や昔の習慣等)は入居者に学ぶ事が多い、と職員。「こうした方がいいよ」「～していいかな」と気軽に話しかけあう雰囲気を保っている。また入居者同士の気遣いの声かけ等も見られ、お互いに支えあう関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に独自のアセスメントシートを用いて生活歴・好みや意向を把握している。出来る限りこれまでの暮らし方に近づけ、お仏壇・家具・写真・思い出の品等を居室に持込んで頂いている。また本人等の話の中から思いを受け止め、検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が担当した介護計画書を基に全体でカンファレンスを持ち作成している。入居者・ご家族の意向や課題を明確にし、主治医や看護師等とも話し合いを持ちながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをしている。また状態に応じてその都度、本人・家族・主治医他、関係者と連絡を取り合い見直し・変更を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	宿泊希望のご家族用の布団が常備しており、実際に本人の部屋で一緒に寝泊りして頂いた経緯あり。また家族などの意向を把握した上で、当法人の主治医による健康診断を職員が付き添って毎年、全員に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開所当初からの入居者の高齢化に伴い、かかりつけ医とのより適切な連携を進めている。常に早期受診を心がけ本人・家族の意向に沿いながら、施設の職員が通院介助を行う等の受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師資格者の施設長を中心に法人内の医師・訪問看護ステーションとの連携や、方針を共有できる体制が整っている。また当ホームで看取りの支援をした経緯があり、その経験を活かしながら本人・家族・かかりつけ医等と話し合いを持ちながら取り組んでいる。	○	本人・ご家族によっては方針を決めかねている方もいる。早期に話し合いを重ね、意向を引き出す努力をし、チーム全員でその共有に向けての努力中である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの個性や性格等を尊重し、職員は入居者に学ぶ姿勢があり、優しく・穏やかな対応をしている。開所当初から行って来た、家族へのお便りや写真等の取り扱いについても慎重に取り組み、配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は“その人らしさ”を健康面や生活面から大切に捉えている。ラジオ体操を生活リズムの中に取り入れる等の大まかなホームでの生活の流れを基に、その日・その時々入居者の意向を把握しながら無理のない、安定した生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“昔とった杵柄”で若い職員にとっては、入居者に教えて頂くことも多い、と話された。それぞれが力を発揮し、調理・盛り付け・配膳や後片付け等を行っている。また自由に取り分けることが出来る副菜も2～3品あり、普通の家庭的な楽しい食事の時間を職員や入居者皆で過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人ごとに入浴時間・回数などの希望を把握した上で支援をしている。ホームでの大まかな一日の流れの中に、午前・午後ともに必ず職員が1名付き添って入浴出来る体制を整えながら、希望やタイミングに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在、女性の入居者のみということもあり、家事を日常的に楽しみとしている方が多い。その他、植物の世話・買い物・体操や歌・散歩等それぞれの楽しみごとを支援している。サツマイモの水栽培から発芽させ苗を育て、移植から収穫まで楽しんだ経験もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化とともに冬季は特に本人の外出希望・意欲も低下しがちになる。食材の買い物や近所の散歩を楽しむことや、希望によっては白鳥を見に行く、紅葉狩りのドライブを楽しむ等の外出支援を行っている。	○	ホームは2階にあり、外出には階段昇降が必要となる。この事が下肢の筋力・健康維持に繋がっていると思われる。手摺りについては既に工夫もされているが、外出の楽しみが維持できるように更なる取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常生活の中で鍵をかける意味、かけない意味を認識すると共に施錠の弊害を理解している。玄関に鍵はかけていないが、センサーを設置している。居室は本人がかけようと思えば、内側からは鍵をかけられるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練と全職員が自ら通報する訓練も行っている。複合施設のため、他事業の職員や地元の消防団の協力は得られている。地震や災害については様々な状態を想定した対応マニュアルが作成されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な食生活を大切に支援しながら、体重チェックグラフを作成し管理している。調理師免許を持つ職員を中心に栄養バランス・水分確保の支援をしている。歯科医との連携や咀嚼・嚥下力の見極めもされ、状態に応じた食べる力も支援している。	○	法人内の管理栄養士の協力を得て、食事量・栄養バランス等を専門的観点からチェックをしていただき、健康面のより適切な支援へ向けて、連携・取り組みにも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花鉢が置かれ、ホームの名前のコマクサ(高山植物)の写真が飾られている。日当たりの良い居間には炬燵・藤椅子・ソファ・テレビや家具等が置かれ家庭的な生活空間となっている。台所・食堂や廊下はゆったりとしたスペースが確保されていて、思いおもいに過ごせる共有の場となっている。窓の外に物干し場があり、洗濯物が見え、ホールいっぱい調理中の美味しそうな匂いが漂い生活感が溢れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッド・布団や歩行器・テレビ等を持ち込んで頂いたり、思い出の写真を飾ったり、お仏壇のお供え物や手を合わせる日課などを大切に、これまでの在宅生活に近づけ居心地良く過ごせる居室へ配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。